

第五章 鑛業ニ對スル放資ノ情况

明治三十九年ニ於テハ各般ノ産業ニ對シ資本ノ放下盛ンニ行ハレタルカ鑛業ニ付テモ其放資ノ盛
 ンナリシコト未タ曾テ見サル所ナリ個人ニシテ新ニ鑛業ノ經營ニ着手シ又ハ既設事業ノ擴張ノ爲
 ニ放下シタル資本額ヲ示スヲ得ハ其額頗ル多大ナルヘキモ個人的企業ノ性質上之ヲ詳知スルヲ得
 サルハ止ムヲ得サル所ナリ然レトモ第一章ニ於テ説明シタル出願件數ノ激增ニ徴シ又第八章ニ於
 テ説明シタル既設事業ノ擴張若クハ新ニ開坑シタル事實ニ稽フルトキハ以テ其放資ノ大勢ノ一班
 ヲ窺フニ足ルヘシ若シ夫レ日本興業銀行カ鑛業ニ對シテ貸付ヲ爲スコト、ナリ其貸付ヲ受ケタル
 モノ三鑛山百八十二萬餘圓ヲ以テ算セラレタル事實ノ如キハ世人ノ既ニ知レル所ニ屬セリ
 會社ノ新設又ハ既設會社ノ増資ニ依リテ三十九年中ニ現ハレタル投資額如何ヲ觀察センニ三十八
 年末ニ於ケル鑛業會社ハ

種 別	會 社 數	資 本 額	拂 込 額
石炭鑛業ヲ目的トスル會社	四一	二八、〇三〇、六〇〇 ^四	二六、一一八、九三七 ^四
石炭及金屬鑛業ヲ目的トスル會社	四	一一、一〇〇、〇〇〇	一一、一〇〇、〇〇〇
金屬及非金屬鑛業ヲ目的トスル會社	四一	七、二〇二、五五〇	五、八三八、三〇〇
石油鑛業ヲ目的トスル會社	四七	三二、九〇一、九六〇	一一、二九〇、九五九
合 計	一三三	八〇、二三五、一一〇	五六、三四八、一九六

(備考) 右表ノ金屬及非金屬鑛業中ニハ石炭ヲ除ケリ以下倣之)

ニシテ之ヲ細別スルトキハ左表ノ如シ

[illegible]

而シテ三十九年中ニ新設シタル會社ハ

種別

會社數

資本額

石炭鑛業ヲ目的トスル會社

金屬及非金屬鑛業ヲ目的トスル會社

二四	二六、七七〇、〇〇〇
三三	六、八四〇、〇〇〇

石油鑛業ヲ目的トスル會社

合
計

二 四〇〇〇〇〇〇〇
五九 三七六一〇〇〇〇〇

ニシテ之ヲ細別スレハ左表ノ如シ

(明治三十九年十二月末日調)

[illegible]

又既設會社カ三十九年中ニ於ケル増資額ヲ見ルニ

種別

會社數

增資額

石炭鑛業ヲ目的トスル會社

[illegible]

金屬鑛業ヲ目的トスル會社

一、四、五〇、〇〇〇

第五章 礦業ニ對スル放資ノ情況

九九

石油鑛業ヲ目的トスル會社

合計

三
五、一四〇、〇〇〇
一八、九二五、〇〇〇

(明治三十九年十二月末日調)

ニシテ即チ新設會社ノ資本額及既設會社ノ増資額ハ

種 別	新 設 會 社		既 設 會 社		合 計	
	會社數	資 本 額	會社數	増 資 額	會社數	資 本 額
石炭鑛業ヲ目的トスル會社	二四	二六、七七〇、〇〇〇 _円	五	一二、三三五、〇〇〇 _円	二九	三九、一〇五、〇〇〇 _円
金屬及非金屬鑛業ヲ目的トスル會社	三三	六、八四〇、〇〇〇	一	一、四五〇、〇〇〇	三四	八、二九〇、〇〇〇
石油鑛業ヲ目的トスル會社	二	四、〇〇〇、〇〇〇	三	五、一四〇、〇〇〇	五	九、一四〇、〇〇〇
合 計	五九	三七、六一〇、〇〇〇	九	一八、九二五、〇〇〇	六八	五六、五三五、〇〇〇

ニシテ總計五千六百五十三萬五千圓ナリトス

鑛物ノ採掘製鍊ノ事業勃興ト同時ニ専ラ鑛物ノ製鍊ヲ目的トシ又ハ採掘製鍊シタル鑛物ノ販賣又ハ輸送ヲ目的トスル會社ノ興ルハ當然ニシテ三十九年中ニ於テ之等會社ノ新設又ハ増資シタルモノハ左ノ如シ

種 別

會社數

資 本 額

金屬製鍊業ヲ目的トスル會社

四
一四、〇〇〇、〇〇〇_円

石油精製業ヲ目的トスル會社

四
五、五〇〇、〇〇〇

石油輸送業ヲ目的トスル會社

(増資)
一、〇〇〇、〇〇〇

石油ノ精製及販賣ヲ目的トスル會社

一
二、〇〇〇、〇〇〇

合 計

一〇
二二、五〇〇、〇〇〇

鑛業會社ノ新設又ハ増資ニ依ル資本額ニ前記十會社ノ資本額ヲ加フルトキハ無慮七千九百三萬五千圓ニ上ルヘシ

今三十九年中ニ於ケル鑛業會社ニ對スル放資額五千六百五十三萬五千圓ハ三十八年末ニ於ケル鑛業會社ノ資本總額八千二十三萬五千百十圓ニ對シ七割ニ該當スルモノニシテ而シテ右三十九年中ニ於ケル資本放下額ヲ鑛業別トナストキハ石炭鑛業ハ六割九分、石油鑛業ハ一割六分、金屬及非金屬鑛業ハ一割五分ノ割合トナルヘシ次ニ投資額ヲ會社別及資本額等ノ側ヨリ觀察スルトキハ新設會社五十九ノ中金屬及非金屬鑛業ノモノ三十三ヲ占メ石炭鑛業ハ二十四ナルヲ以テ金屬及非金屬鑛業ノモノ最モ多數ヲ占メ居レリ然レトモ金屬及非金屬鑛業ニ付テハ小資本ノ會社勃興シ殊ニ五萬圓以下ノ合資及合名會社ノ多數新設セラレタルカ爲ニ總放資額大ナラス之ニ反シテ石炭鑛業ニ付テハ大資本ノ會社多數新設セラレ即チ五十萬圓以上ノ資本ヲ有スル會社多數勃興シ且ツ既設會社ノ増資額モ亦巨額アリタルニ依リ其總資本額ハ三千九百餘萬圓ノ多キヲ致セリ

石油鑛業ニ付テハ二新設會社アルノミニシテ會社勃興ノ趨勢ニ徴シ其設立數寧ロ少ナキカ如キ觀アリ而シテ三十九年中ニ於テ十一會社解散シタルヲ以テ三十九年末ニ於テハ會社數三十八此資本額三千六百七十九萬千九百六十圓(増資額モ合算セリ)トナリ之ヲ三十八年ニ比セハ會社數ニ於テ九

ヲ減シ資本額ニ於テ三百八十九萬圓ヲ増加セリ之レ該礦業ハ小規模ノ組織ヨリ漸次大規模ノ經營ニ移リツ、アル傾向ノ一班ヲ説明スルモノナリ

石油礦業ニ付テハ他礦業ニ比シ放資上自ラ趣ヲ同フセサルモノアリ即チ少額ノ株式ヲ發行シ零碎ノ資金ヲ集メ組合ヲ組織シ石油ノ採掘業ヲ經營スルコト之レナリ右石油組合ノ資本額等ヲ調査スルニ三十八年末ニ於テハ組合數六十六(此資本金三百五十二萬八千四百圓、拂込額二百十五萬五千五百圓)ナリシカ三十九年中ニ於テ三十五組合(此資本金三百三萬五千五百圓、拂込額百二十一萬九千八百圓)新設セラレ十一組合(此資本金四十九萬二百圓、拂込額二十九萬五千五百圓)解散シタリ右三十八年末及三十九年末ニ於ケル石油組合數、資本額等ヲ對照スルトキハ左ノ如シ

三十八年末			三十九年末			比較		
組合數	資本額	拂込額	組合數	資本額	拂込額	組合數	資本額	拂込額
六六、三、五二八、四〇〇	二、一五五、五〇〇	九〇、六、〇九三、七〇〇	三、〇八三、八〇〇	二四二、五六五、三〇〇	五一八、五〇〇			

三十九年ニ於テハ特ニ多數ノ外國資本家又ハ其代理人本邦ニ渡來シ投資スヘキ鑛山ヲ調査シタル事實アリタルカ此ノ爲ニ我鑛業界ニ外資ノ投下セラレタルモノ果シテ幾何ナルヤハ茲ニ之ヲ知ル能ハスト雖モ鑛業人ニ於テ自ラ進ンテ外國資本家ト交渉シ外資ノ貸付ヲ受ケ之ヲ企業上ニ使用セルモノニ至テハ其世ニ知ラレタルモノヲ以テスルモ三件千百七十萬圓ヲ以テ算セラル

三十九年中ニ於テ諸金屬ノ採掘事業ニ對シ外國人ノ設立シタル會社ノ多數起リタルハ注意スヘキ

一事項ナリ三十八年末ニ於テ外國人ノミニ依リ又ハ内外人共同シテ設立シタル鑛業會社ハ石炭鑛業會社一(資本金六十萬圓)金屬鑛業會社五(九萬圓)石油鑛業會社一(二千萬圓)合計七ナリシカ三十九年中ニ於テハ左ノ如ク金屬鑛業會社ノ設立ヲ見ルニ至レリ

種別	會社數	資本額
株式	一	五、〇〇〇 ^円
合名	六	二八五、〇〇〇
合計	七	二九〇、〇〇〇

而シテ右記會社ハ開港地ニ在留シ鑛物等ノ輸出入業ヲ營メル外國商社又ハ商人ノ組織セルモノ多シトス

三十九年中ニ於テ石炭鑛業又ハ金屬及非金屬鑛業ニ關シ會社ノ新設多カリシハ鑛業界ニ於ケル好現象ト謂フヘシ之レ新設會社ノ目論見書ニ依レハ個人ノ所有セル鑛區ヲ買収又ハ合併シテ多額ノ資本ヲ放下シ鑛產ノ多大ヲ企圖セルモノ多キヲ以テ此點ノミヨリ觀察スルモ鑛業ノ發達ヲ資益スルコト多キモノアレハナリ且ツ又新ニ新鑛區ヲ得テ企業セントスルモノニ於テモ資本投下ノ額大ナルニ從ヒ鑛產ノ増加ヲ期待シ得ラル、コト大ナルモノアレハナリ

以上説明シタル如ク三十九年ニ於テハ鑛業會社ノ勃興頗ル隆盛ナリシカ今試ニ三十八年末ニ於ケルモノト三十九年末ニ於ケルモノトヲ比較スルトキハ左ノ如キヲ見ルヘシ、

	三十一年末		三十九年末		増減 (△印ハ減)	
	會社數	資 本 額	會社數	資 本 額	會社數	資 本 額
石炭鑛業ヲ目的トスル會社	四一	二八、〇三〇、六〇〇 _円	六五	六七、一三五、六〇〇 _円	二四	三九、一〇五、〇〇〇 _円
石炭及金屬鑛業ヲ目的トスル會社	四	一二、一〇〇、〇〇〇	四	一二、一〇〇、〇〇〇	〇	〇
金屬及非金屬鑛業ヲ目的トスル會社	四一	七、二〇二、五五〇	七〇	一三、八九二、五五〇	二九	六、六九〇、〇〇〇
石油鑛業ヲ目的トスル會社	四七	三三、九〇一、九六〇	三八	三六、七九一、九六〇	△九	三、八九〇、〇〇〇
合 計	一三三	八〇、二三五、一一〇	一七七	一二九、九二〇、一一〇	四四	四九、六八五、〇〇〇

即チ三十八年ニ於テハ鑛業會社ノ數百三十三此資本總額八千二十三萬五千百十圓ナリシカ三十九年中ニ於テハ金屬及非金屬鑛業會社ノ解散シタルモノ四此資本總額百六十萬圓、石油鑛業會社ノ解散シタルモノ十一此資本總額五百二十五萬圓アリタルモノ新設會社ノ勃興及既設會社ノ増資ニ依リ同年末ニ於テハ鑛業會社ノ數百七十七此資本總額ハ無慮一億二千九百九十二萬百十圓ヲ以テ算セラル、ニ至レリ若シ之ニ前記十個ノ製鍊會社等ヲ合算スルトキハ一億五千二百四十二萬百十圓トナルヘシ

終ニ三十八年ニ於ケル會社組織ニ依ル企業ト個人企業トノ我鑛業界ニ於ケル地位ヲ示シ以テ三十九年中ニ於ケル會社組織ニ依ル投資ヲ研究スルモノ、參照ニ資スヘシ
三十八年末ニ於ケル鑛區數ハ五千四百九十六ニシテ此內鑛業會社ノ名ヲ以テ所有セル鑛區七百七

十四即チ總鑛區ノ一割四分アリ而シテ鑛產額十萬圓以上ノ生産ヲ爲ス鑛業人ニ付個人ト會社トノ割合ヲ見レハ

種 別	石 炭		金 屬		石 油	
	個 人	會 社	個 人	會 社	個 人	會 社
合 計	二九	一五	一八	八	一	五
總鑛業人ニ對スル割合	六六	三四	七〇	三〇	一七	八三
個人ト會社トノ割合	一〇〇	二六	一〇〇	六	一〇〇	一〇〇

ニシテ又重要鑛山ト稱セラレタル三百九ノ鑛山(政府ノ所有セル三炭山ヲ除ク)ニ付會社ノ經營セルモノト個人ノ經營セルモノトニ分チテ其產額ヲ比較スルトキハ左ノ如キ割合トナルヘシ

鑛山種類	鑛山數	產 額	同 產 額	總鑛業人ニ對スル割合	總產額ニ對スル會社個人トノ割合
金銀銅及砂金	金 六八一、九四六 匁 銀 一九、一一七、七二二 匁 銅 四九、四二三、四〇三 匁	金 三九一、九五七 匁 銀 一五、六二二、七九九 匁 銅 三六、四一三、六二二 匁	金 二八九、九八九 匁 銀 三、四八八、九二四 匁 銅 一三、〇一〇、七八一 匁	會社 〇〇、六三二 個人 〇〇、三八二	會社 〇〇、五三七 個人 〇〇、四三三
石 炭	八三 一〇、二六五、二三六 噸	六、三四六、五一四 噸	三、九一八、七二二 噸	會社 〇〇、四二二 個人 〇〇、五八二	會社 〇〇、三六九 個人 〇〇、三九一
亞 炭	八 四八、二五七、七四九 匁	二五、四〇五、九〇〇 匁	二二、八五一、八四九 匁	會社 〇〇、八八二 個人 〇〇、一八二	會社 〇〇、四七三 個人 〇〇、五三七

硫黃	水銀	磷	石油	硫化鐵	鐵及砂鐵	錫	安質母尼	滿俺	黑鉛
一七	一	五	三一	三	一六	二	五	四	六
三七、八一、五一、九	五八〇	二、五四、〇八七	一、一〇、〇二六	二、五五、六七六	一二、一八六、四二二	三三、四八六	三五二、九八六	五、四三二、七九四	二四一、七九五
六	一	一	二七						
八、〇八五、一四三	五八〇	五八、三七四	九六八、七二三						
一二		四	四	三	一六	二	五	四	六
二九、七二七、三七六		二、四八五、七一三	一四一、三〇三	二、五五、六七六	一二、一八六、四二二	三三、四八六	三五二、九八六	五、四三二、七九四	二四一、七九五
〇〇、六三五	一、〇〇〇	〇〇、八二〇	〇〇、一八七	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
〇〇、七二一	一、〇〇〇	〇〇、九八二	〇〇、一八二	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇

以上記載ノ事實ニ依ルトキハ三百九ノ鑛山中會社ノ經營セルモノ百十二即チ約四割ニ當リ而シテ石油ニ付テハ會社ノ企業最モ勢力ヲ有シ金、銀、銅及石炭之ニ次ケリ尤モ金、銀、銅及石炭ニ付テハ合名會社ノ經營セルモノ產額多キコトヲ忘却スヘカラス